

「人民日報」の行間を読む：現代中国研究と「人民日報（People's Daily）」

| | |
|-----|---|
| 著者 | 井上 一郎 |
| 雑誌名 | 時計台 |
| 号 | 83 |
| ページ | 17-17 |
| 発行年 | 2013-04-01 |
| URL | http://hdl.handle.net/10236/11828 |

こんな風につかっています
私の電子情報活用事例

vol.2



総合政策学部准教授
井上 一郎

「人民日報」の行間を読む

—現代中国研究と「人民日報 (People's Daily)」

データベースの利用—

私は中国の外交・安全保障政策を研究しています。現代中国政治を研究する者にとって、日々発行される現地の新聞・雑誌のフォローは不可欠です。その中でも基本作業に位置づけられるのは中国の代表的な新聞「人民日報」を読むことです。「人民日報」はひとくちに新聞といっても、我々がいつも読んでいるような新聞とはかなり違います。あえて日本で例えれば、政府の「官報」、あるいは日本共産党の機関紙「赤旗」といえばさこしイメージがわくでしょうか。そうです、「人民日報」は中国共産党の機関紙なのです。事実上、一党独裁の政治体制にある中国では、政府も中国共産党と一体と考えられるので、日々の中国政府の活動は、「人民日報」を通して最も公式に伝えられ、また、オフィシャルな記録として残されます。

かつて、冷戦たけなわのころ、ソ連政治の研究者は社会主義ソ連の総本山クレムリンになぞらえ「クレムリノロジスト」と呼ばれました。閉鎖的な政治体制の内側をウォッチする彼らは、政府公式発表や公開写真におけるほんの少しの変化などから、そのふ厚い「赤い」壁の向こうで起きている重大な政治変化を読み取るのが主な仕事でした。今日の中国は、市場経済が定着し、多くの商業ベースの新聞・雑誌が出回り、また、インターネットも普及しています。しかし、中国政治の一番大事な部分を理解しようとする際には、引き続きかつての「クレムリノロジスト」と同じような手法は必要です。

なぜなら、一番大事な政治の情報は未だ党・政府によってしっかり管理され、そのプロセスを経た上で「人民日報」紙上に表現されるからです。ということは、そこに何が書かれているかはもちろん大切ではあるものの、しばしば、もっと重要なのは、そこに何が書かれていないのかということであったりします。さすがに今日、共産党のプロパガンダといえども、まったくのウソを平気で書くようなことはまずありません。しかし、ある事象についての一側面のみを報道することによって、それがあたかもすべての事実であるがごとく表現してみせたり、また、はなはだしきは、海外では自明の事実を全く無視して報道しないといったようなこともしばしば起きます。そこに特定の事象や問題に対する中国政府の見方や政治的姿勢が窺われるのです。

今般、「人民日報」データベースが利用できるようになり、おかげさまで、中国政府の公式活動の確認作業などに頻繁に活用しています。しかし、記事を「普通に」読むことはあまりありません。むしろ、ある事象が中国でどのように報道されているのかを理解するために、もっと皮肉なことには、ある事実が書かれていないことを確認するために紙面をチェックすることの方が多いのです。かくして「人民日報」の行間を読む作業は日々続きます。



人民日報 People's Daily (1946 - Present)
人民日報社 / OriProbe Information Service

人民日報 People's Daily とは

人民日報 People's Daily は、中国でもっとも権威のある新聞「人民日報」の記事を検索・閲覧できるデータベースです。1946年から今までのあらゆるデータを収録しており、毎週更新されます。記事に関しては、テキストフォーマットと原版様式を提供しています。